



図書館だより



2022年
9月30日号

秋草学園高等学校 図書館

2学期が始まって、早1ヵ月。桔梗祭を無事に終え、少し燃え尽き症候群ぎみの人もいるかもしれませんが、気持ちを切り替えて、新たな目標を掲げて学校生活を楽しんでいきましょう。2年生は来月に修学旅行が待っていますが、事前学習は進んでいますか。図書館には長崎・福岡方面の旅行ガイド、平和学習のための資料などが揃えてあります。現地で過ごす時間をよりよいものにするための下調べに図書館の蔵書をどんどん活用してください。また、桔梗祭企画の「図書委員のおすすめ本紹介POP」で紹介した本の展示も引き続き、館内で行っています。

今年の料理レシピ本大賞に輝いたのは！？

今年第9回を迎えた料理レシピ本大賞 in Japan。今年も「作ってみたい!」「食べてみたい!」と心惹かれるレシピ本がそれぞれの部門で大賞に輝きました。

👑【料理部門】大賞

596-R『リュウジ式 至高のレシピ』
リュウジ || 著 ライツ社



YouTubeでもSNSでも大人気のリュウジさんの「邪道にして至高」なレシピ本。定番料理がリュウジ流アレンジで人生最高の味に仕上げられています。おいしそうだけでなく、作り方がシンプルで「これなら私にも作れるかも」と思わせてくれるのが大きな魅力。

👑【お菓子部門】大賞

596-S『満月珈琲店のレシピ帖』
桜田 千尋 || 著 主婦の友社



疲れた人だけが訪れることのできる店「満月珈琲店」物語中で主人公たちに提供されたメニューを再現したレシピ集。月や星をテーマにした幻想的なレシピとイラストがお腹だけでなく心も満たしてくれます。ぜひ本編の『満月珈琲店』も一緒に読んでもらいたいです。

👑 コミック賞

726-N『泣きたい夜の甘味処』
中山 有香里 || 著 KADOKAWA



熊と鮭が営む不思議な甘味処。夜だけ開くこの店のメニューは甘いものが一品と温かい飲みもの。日替わりのその一品がお客さんの張り詰めた心を優しく癒します。涙が何度も溢れてしまう温かな物語ばかり。レシピを参考にお客さんを癒したその味を再現してみましょう。

その他の入賞作も併せて館内で展示中です！この秋は手作りで食欲の秋を満喫してみませんか。



この秋スタートのドラマの原作をご紹介します

913.6-7『^{メディウム}medium 霊媒探偵 城塚翡翠』
相沢 沙呼 || 著 講談社

推理作家 香月史郎はその推理力で事件を何度も解決してきた。そんな彼がある事件で出会ったのが霊媒師 城塚翡翠だ。彼女の霊視能力と香月の推理力がさらなる難事件の真相を暴いていく。しかし、最強のコンビと思われた2人には予想外の展開が待ち受けていた！！

913.6-7『祈りのカルテ』

知念 実希人 || 著 KADOKAWA

研修医として様々な科を回っている新米医師の諏訪野良太。相手の感情を敏感に察する良太は診療にあたる中で、患者が何かを心の内にしまいこんでいることに気づく。なぜ本当の気持ちを隠すのか、良太は一人ひとりと真剣に向き合いながら、真実を解きほぐしていく。

新着コーナーの気になる本

B913.6-A『余命3000文字』

村崎 掲諦 || 著 小学館

26の物語が収められた短編集。長くても10ページほどなので隙間時間で気軽に楽しめます。『彼氏がサバ缶になった』、『焼き殺せよ、恋心』、『顔に書いてある』など、どんな展開が待っているのか興味を引かれる個性的なタイトルが揃っています。短くも読み応えあり！

B913.6-Y『ブルーもしくはブルー』

山本 文緒 || 著 KADOKAWA

蒼子が街で出会った自分そっくりの人物。それは単なるそっくりさんではなく、自分が選ばなかった人生を送るもう一人の「蒼子」だった！2人の蒼子はお互いの人生に興味を持ち、1ヶ月だけ入れ替わることにするがそのことが2人の人生に大きな波乱を招いてしまう。

司書の今月はこの本読みました

劇作家の文章は面白い。演劇に活かそうと人間観察や洞察が癖になっている上に、セリフの言い回しなどを大切にしているので、言葉の一つ一つにこだわりが深いからだと思います。最初にそう思ったのは宮沢章夫さんの『**わからなくなってきました**』(B914.6-ミ 新潮社)を読んだ時でした。先日、彼の最後のツイートがあまりにもハイセンスだったので懐かしく本を読み返してみました。やはり愉快的な気持ちで文章を読んでいるうちに、普段自分では見過ごしているけれどと言われると気になる宮沢ワールドを体験できました。宮沢さん、ありがとうございました。【鈴木】